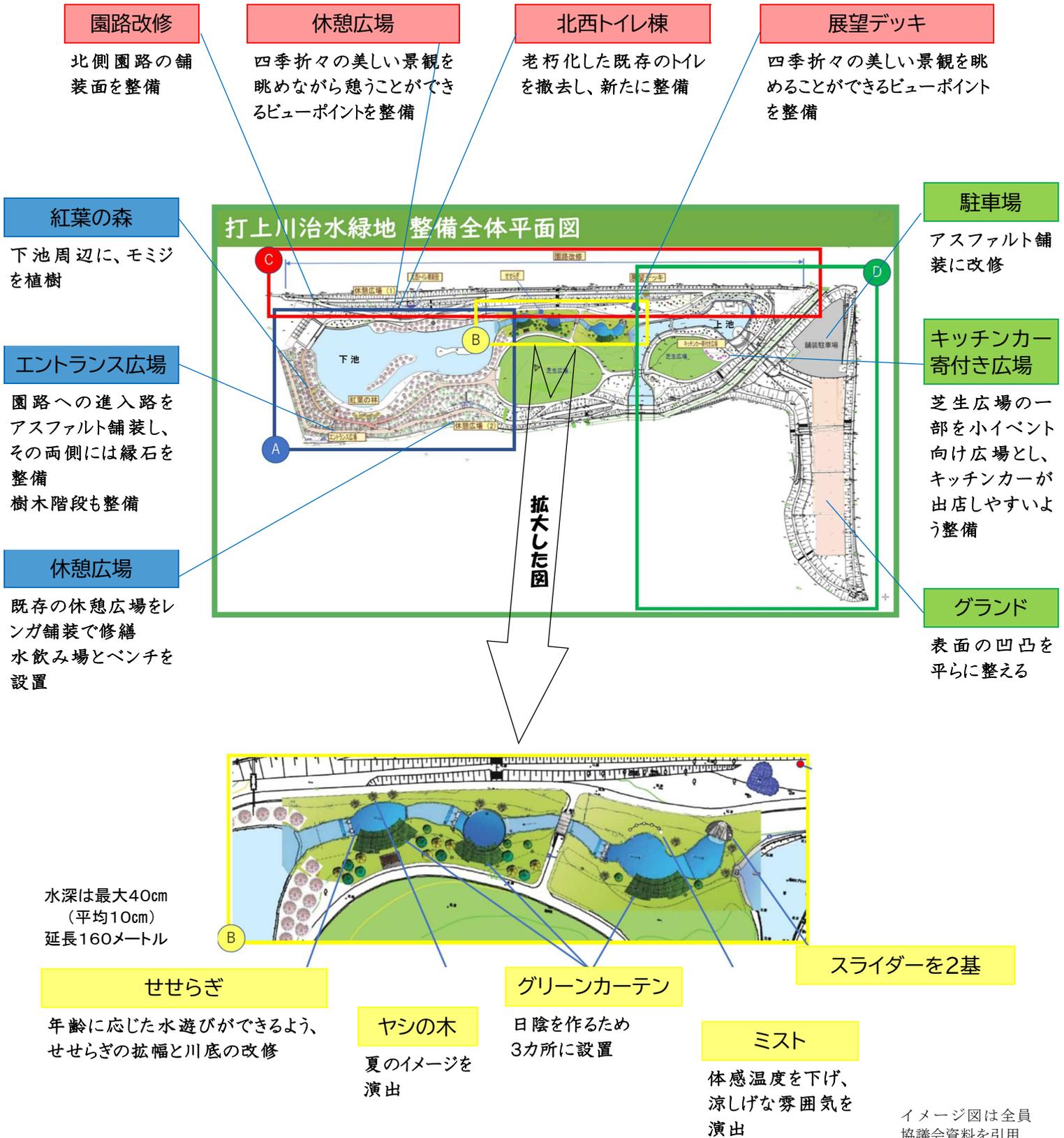


# 打上川治水緑地が変わります

この工事は、予定価格8億2986万円、低入札価格調査基準価格7億5961万円としていたところ、落札額が6億720万円と基準価格を下回ったことから、庁内で低入札価格調査が行われておりました。その調査結果を経て、議会に上程され、審議の結果、可決されました。完成は令和9年3月の予定です。工事の順は「駐車場」⇒「せせらぎ」⇒「池周辺」「イベント広場」「北西トイレ」⇒「園路」「休憩広場」となっています。



# 市政運営方針に対する会派代表質問

代表質問の作成の手順は様々あります。市政運営方針が公表されてから質問の作成に取りかかると、その内容に引き連られる形で、その内容に沿った質問になりがちです。その結果、本市議会では、議員数の多い会派から順に質問が行われるため、他会派と重複する質問内容が多くなり、後で行う質問者の重複質問は陳腐化されてしまいます。それを避けるために会派間で質問項目の調整を行う議会もあります。

本市議会では調整を行わないため、以前は、私どもの会派は市政運営方針の公表より前に質問案を作成するようにしていました。その効果として、質問内容が市政運営方針という狭い範囲で考えた受け身の質問ではなく、市政全般を白紙の状態から独自視点で質問を校正する、攻めの質問になります。

## 市政運営方針の内容

①「担税力のある子育て世代が移り住むための、まちのスペースがない」課題に対して「空き家」に着目し、その活用を促進する。  
その1つとして「(仮称)空き家流通促進税条例」の制定に向けて取り組む。

②「市民プライドの醸成」に向け、負のイメージのある本市を「ブランディング戦略」に基づく政策展開によって「正のブランド」へと転換する。  
それには「長年解決されていない社会的課題の解決につながる政策」や「新たな価値を提案する政策」を連続して実現することによって成し得ることとなる。  
例えば、「こだわりの施設＝中央図書館」や「こだわりの政策＝いじめ対策、特区民泊事業からの離脱表明」「まちのリノベーション＝デザイン・規格の統一化」がそれに当たる。

③ブランディングに基づく「体感治安が悪い」という負のブランドから脱する唯一の方法は、本市に関する別のポジティブなイメージを広く印象づけること。  
例えば「いじめのない環境や教育に力を入れているまち」は、「治安が悪いイメージ」の対角線上で最もポジティブなイメージ。

【市政運営方針では語られなかったものの、重要なファクターへの質問】

## 方針に相対する考え方と質問

①空き家については、社会的に問題視されていなかった頃から提起してきた課題であり、市政運営で大きく取り上げられたことに歓迎しています。その対策には新たなペナルティ的な税の創設だけでなく、インセンティブを付与することも促進する手立てであることや、日本人は新築を好むことから中古物件への抵抗感を取り除く取り組みの必要性を質しました。

②まちのイノベーションを行政が考えるに当たって、デザインや規格の統一化を意識していることを初めて知りました。  
過去に、デザインの担当職員の配置や、デザイン関係事務の統一化、トータルコーディネイトなどを提案していたことから、歓迎すべき取り組みです。ハード面に限定するのではなく、ソフト面とリンクするよう対象範囲の拡大を求めました。

「長年解決されていない社会的課題」には沢山あります。中でも「市民の移動手段の確保」「官民合わせたエッセンスサービスの人材不足」「民生委員のなり手不足」「学校の再編」などの具体例を挙げ、対策についての考えを求めました。

ブランディングに寄与する政策を連続して実現するには、役所内の各部署・職員個々人の士気が重要であることから、ポテンシャルを上げるために実践している取り組みを確認しました。

③「体感治安」に関する研究は近年進んでいます。これまで、犯罪の「原因論・機会論」、体感治安を左右する「社会的・物理的な無秩序」を取り上げ、質してきた経緯があります。  
また、近年の特徴として、ネット空間での犯罪が体感治安を悪くしている要因の上位に位置づけられています。  
市政運営方針で語られた体感治安の改善方法の脈絡は短絡的であることから、これまでの取り組みの拡大や進化版の必要性を訴えました。

・市政運営方針は、その年度の事業立案・予算編成を行うに当たり、その基となる考え方です。しかしながら、経済情勢についての言及がありませんでした。よって、会派側から「生活者の視点」「事業者側にたった視点」での取り組みと、経済成長を後押しする事業について確認しました。

・デジタル技術導入について、以前、市長個人の考えとして「新たなデジタル技術が一定成果が上がり、導入費用が抑えられてから取り組む方法もあろうかと思う」との発言があったことから、改めて、未知への挑戦の考え方として確認しました。